

令和5年度・医療構想会議（審議経過の報告）

令和6年2月

本年度の医療構想会議においては、参加者より以下のような意見が出され、今後、行政と医療界で連携しながら、取組を進めることとされた。

1. 関係医療機関間の連携協働・分担

- 病院間、病院と施設等が、診療科や救急対応、奨学金、研修などで連携協働・分担して、リソースを共有して、患者につなぐべき
 - ➔ 医療機関等全体が「オールいわき」の医療体制で効率的・効果的に患者をつなぎ、治療する
- 既にこうした連携等が進んでおり、これが他自治体にはない本市の強みだ
- 行政主導により、一層、こうした流れを進める調整を担えないか

2. 各段階の役割分担と連携

- 各段階(急性期、回復期、慢性期、介護など)の相互の連携を進めるべき
 - ➔ 例) 急を要する場合、介護認定を迅速化し、福祉施設に患者を早くつなぐなど
- 行政主導により、それらの調整を担えないか

3. 病院の魅力づくり

- 基礎研究と連携した臨床が出来ることの見える化や、研修医プログラムの魅力化・発信を進めるべき

4. コメディカルの育成

- 医師のみでなく、看護師・准看護師・医療事務従事者、ナースプラクティショナーなどのコメディカル育成により、医師の限られたリソースのパフォーマンス向上につなげられる
- 将来のいわきの医療・介護を担う若い世代への働きかけのため、小中学生に対する「いのちの授業」の一層の展開や、高校生に対する授業・ディスカッションの実施等により、医療・介護の職種についての情報の提供に努める必要がある。

5. まちづくり等の環境整備で医師招へい

- 本市出身者がいわきに戻るための郷土愛の育成や、魅力あるまちづくり、教育機関充実(県立中高一貫校整備など)を進めることで、他市から医師を呼び込む総合的政策が必要である
- 診療所の医師が高齢化しているため、第三者による事業承継を市とともに進める政策が必要である